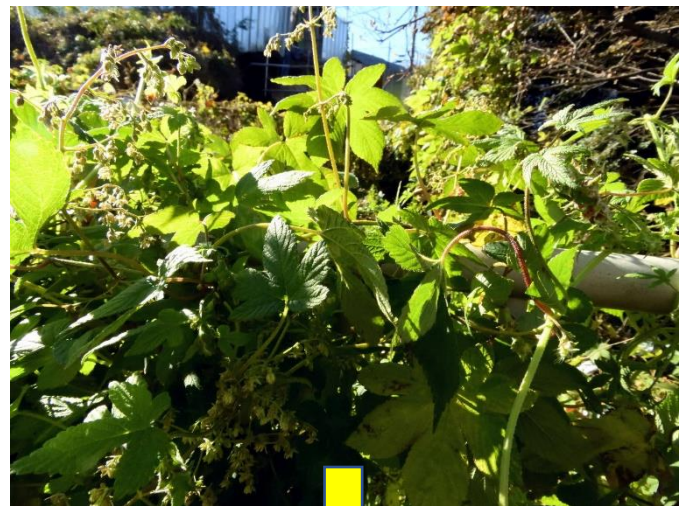


2021. 12. 20

Report from
AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

まだら紅葉・気温急冷・霜枯れ・春の花
どうなっているのか？ 謎の2021年末



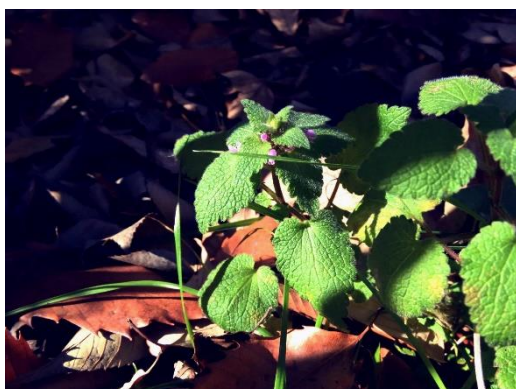
↑12/20の朝は前日に続いて冷え込み、野原一面に霜が降りて真っ白でした。前週12/13には春だと思って新葉を広げ花までつけていた**カナムグラ**があっという間に霜枯れで無残な姿になっていました。(右の上が12/13撮影、同じ場所の同じ植物の12/20の姿)



それでも日向では春の花が開く

前はカラスノエンドウの開花が観察されましたが、12/20は**ヒメオドリコソウ** (下の写真左) と**オオイヌノフグリ** (同右)。写真ではわかりにくいのですが、すごく小さな花がポチンと咲いていました。ふたつとも早春に咲く「春告げ花」です。

このレポートでは気候の異常と植物への影響を再三指摘してきましたが、いよいよ大変なことになってきたと言い切ってもよさそうです。



それでも、自然の動きを感じて、楽しみながらのモニタリング



八丁目の林の周辺はごくごく狭いエリアなのですが、そこでは3種の赤い実が並んでいました。左の1枚写真はシロダモ、右の写真ではナンテンとマンリョウの実が並んでいました。



写真左から

オニドコロの実の殻が弾けて種子が飛び散った後、花よりもこの姿のほうが派手です。オオブタクサという生物多様性保全には迷惑な草、これも春を感じたのでしょうか背丈をぐんと伸ばして蕾までつけていました。オドリコソウはいつも通りの展葉。隣接する南側民有地で開発が進行中なので、来年はその影響が気になります。

今年のモニタリング活動は終了しました。



冬至が迫ってきて太陽が低くなりました。晴れた日は日差しがまぶしい屋外活動ですが、毎回ごみ拾いをしながら、そして、たまには草刈りもしながらの観察・記録活動でした。毎週のように同じ場所を観察し続けていると、季節の移ろいが手に取るようにわかってきます。こまめな観察を続けて1年1シーズンを過ぎると、そこに生きている植物とも親しくなり、花の名前も覚えるようになるものです。それが、ニリンソウを守る会やみどりの手などの林の手入れ活動に取り組む力にもなっています。来年も続けます。



*** 新年 2022 年 1 月のモニタリングは 1/10、1/17、1/31 9:00 ため池公園スタート**

*** ニリンソウ自生地保護活動 新年最初の草刈り活動 1/16 10:00 ため池公園梅林下集合**

こちらも参加大歓迎 問合せ先：赤塚公園サービスセンターへ 電話：03-3938-5715